

人間

ギャラリー

マチに生きる

人のこころ

2月1日～2月28日届出分

患者さんの幅広いニーズに応えたい

表町 石間 巧さん(44歳)



表町に実家があり、生まれも育ちも厚真人の石間先生。

あつまクリニック院長の小林先生の誘いで、一月から同クリニクでたくさんの町民の体を守る医師となった。

札幌の整形外科病院の副院長を務めていた石間先生は「ゆくゆくはふるさと厚真へ戻ってきたかった。専門が分化し、コンピュータなどに頼りがちな医療ではなく、患者さんとゆつくり話をしながら診療にあたりたいと思っていたんです。小さい時に診てもらった役場前に病院があった堀川先生のイメージですよ」と話す。

しばらくは隔週の勤務となりますが、「内科や小児科など幅広く研修を重ね、患者さんのニーズに添えていきたい」と抱負を語る。

自分の体の健康にも気を使う石間先生は、早朝約十キロのランニ

マチの善意

ングを欠かさない。「ふるさとの景色を眺め、移りゆく季節を感じながら、夏の北海道マラソンに向けて体力づくりのため走っています」と笑顔を見せる。

心強い先生が戻ってきた！



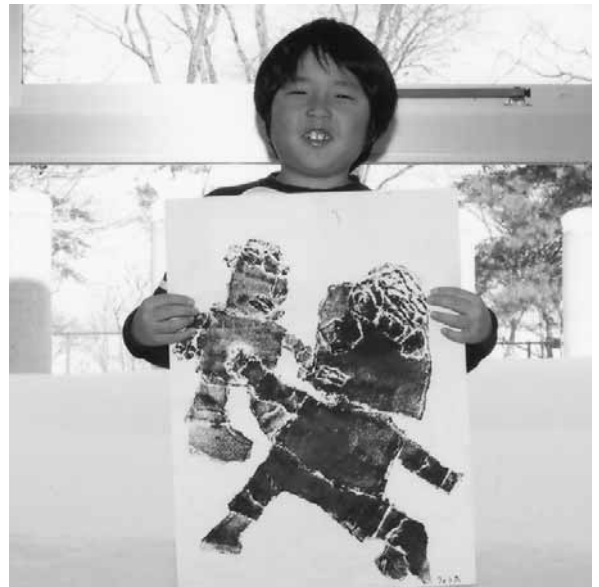
かみ あつ ましろう ねん
上厚真小 1年

いけだ ゆうへい
池田 侑平くん (7)

「紙版画を作りました。はじめて作ったけど、おもしろかったしうまくできたよ！」



ぼくたちの作品



かみ あつ ましろう ねん
上厚真小 1年

おくい りょうた
奥井 峻太くん (7)

「サッカーのパスをしているところを版画で作りました。うまくできてうれしかった！」

ぼくの・わたしの
クラス自慢

ともだちっていいな



その57

あつまちゅうがっこう
厚真中学校

紹介してくれたのは…

ねん くみ
厚真中学校 3年A組のみなさん
(書いてくれたのは) もりた きょうへい
森田 恭平くん



僕たち三年A組三十四人は、学級目標「俺達流」をかかげこの一年間様々なことに取り組み頑張ってきました。その中でも体育大会での、学級対抗種目「しばって走れ」ではクラスが最も団結した瞬間でした。また中学校生活最後のとなる学校祭では、特に合唱コンクールに力を入れ、念願の最優秀賞をとることができ、本当に一番の思い出となりました。

時には学級内で対立を起したり、クラス全体がまとまらなかつたりと、様々な問題が起こった時もありましたが、皆で支え合い全てのことを成功させることができました。

これからは、一人一人が違う進路に向かって新たな道を歩んでいくこととなります。沢山のクラスで笑ったこと、泣いたこと・・・いつになっても忘れることはありません。最後に、本当にこのクラスで良い思い出をつくり、楽しい時間をすごしました。